

2019年度 年次報告書

一般財団法人 神石高原地域創造チャレンジ基金

(2020年12月発行)



豪雨、新型コロナウイルス感染症による事業へのダメージ。それでも事業支援は継続実行。

神石高原地域創造チャレンジ基金（通称 チャレンジ基金）は、神石高原町地域における産業の振興をはかり、地域のにぎわいを創出することにより、当該地域の事業体の運営を支援し、当該地域が継続的なコミュニティとして発展拡大することに寄与することを目的に、事業資金支援、事業運営支援、その実績を発信することにより、地域のにぎわいの創出にも貢献する活動を行なっています。

現在、支援先は7事業。合計5,240万円事業資金支援を行っており、自然豊かな神石高原町ならではの神石牛関連牛舎の拡大や地元・油木高校の動画コンテンツ作成クラブの支援継続のための動画制作事業、古民家ゲストハウス事業など多岐にわたります。

本年次報告書で、支援先事業についてご報告をさせていただきますが、豪雨災害、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける中で、それぞれの事業主の皆様は不安を抱えながら事業運営されておられました。それでも、なんとか事業を継続させようと工夫とアイデア、知恵を絞られておられる様子に大変感銘を受けました。社会全体が、大変な状況にありますがチャレンジ基金ならびに支援先事業が継続できているのは、日頃からチャレンジ基金に深いご理解とご協力を賜っておりますおかげです。深く感謝申し上げます。

私たちは、今後も継続して支援先事業者のみなさんとともに、活動を続けてまいります。また、事業遂行の苦労を乗り越えた経験とノウハウは、広く地域創生を目指す全国の仲間たちにも情報を共有し、地域創生のプラットフォームとなるべく尽力してまいります。

引き続き、ご指導ご鞭撻のほどどうかよろしくお願いいたします。

一般財団法人 神石高原地域創造チャレンジ基金
(通称 チャレンジ基金)
代表理事 上山実



支援先事業の状況報告

合同会社 中ちゃん農園：農産物の生産加工

【概要】

代表者：細川 中一

資金支援額：200万円

支援決定：2017年1回

資金活用：加工設備の拡充



<加工施設内部と生産した農作物で作った加工品>

【現況報告】

中（ちゅう）ちゃん農園の主な生産物は6月中旬から「にんにく」、「夏野菜」、「米」、「椎茸」、「生姜」等を中心に栽培されています。特に「にんにく」は加工品として「にんにくの醤油漬け」・「にんにく酢」を製造されています。

例年9月から11月は原木椎茸栽培で非常に忙しい時期となります。多い日は20kg/日の収穫量となり、生出荷、乾燥椎茸とフル稼働の毎日です。

12月に入ると「原木椎茸栽培」用の原木の切出し作業に入ります。これは大変重労働で、ケガなどしない様、完全装備（ヘルメット・安全靴・チャップス）を徹底。原木本数で約1500本程度椎茸菌を植付されます。

【代表からのメッセージ】

チャレンジ基金を利用し、農機具やビニールハウスの整備、更に加工設備を整備しました。加工設備については、令和6年6月1日より「加工品」については、現在の届け出制度から許可制度に変更となります。国のパブリックコメントで知ってはいたのですが、思ったよりも早く施行される様です。「加工室」は一般許可条件に合致しており許可制度に対応しており、チャレンジ基金が本当に役立ったと思っています。



支援先事業の状況報告

株式会社ヴィレッジホーム光末：農畜産物の生産販売

【概要】

代表者：光末 幸司

支援決定：2017年1回

資金支援額：2000万円

資金活用：神石牛関連牛舎の拡大

ホームページ：<https://vhm.jp/>



＜基金の支援によって建設された牛舎＞

【現況報告】

農畜産物の製造販売を手掛けられる中で、人気があるものの数がすくなくなってきた、貴重なブランド牛「神石牛」の繁殖から肥育までの一貫の事業を遂行されることを目的にされ、2019年3月に新築牛舎稼働、12月にも子牛牛舎が完成し稼働開始されました。この畜産部門の基盤は拡充されて、これから一層本格的に稼働の方針です。農畜産物の生産故、気候に左右されやすく、今後は収支を安定させるように運営努力をされています。組織体制も確立させて、事業毎に責任者を任命、予実管理および戦略を修正して運営できる体制にも移行されています。引き続き地元の方々とともに神石牛のブランドを磨くべく事業遂行されます。

写真はチャレンジ基金からの出資により建てられた牛舎です。

【代表からのメッセージ】

コロナの影響で3月・4月の子牛販売価格が急激に下落し、今後の見通しについて大変危惧致しましたが、現在では子牛価格も徐々に回復しておりひとまずは安心しております。

今後も神石牛の増産に努め、一日でも早く一貫経営ができるよう精進します。

支援先事業の状況報告

株式会社フェアトラベルジャパン：古民家活用ゲストハウス運営

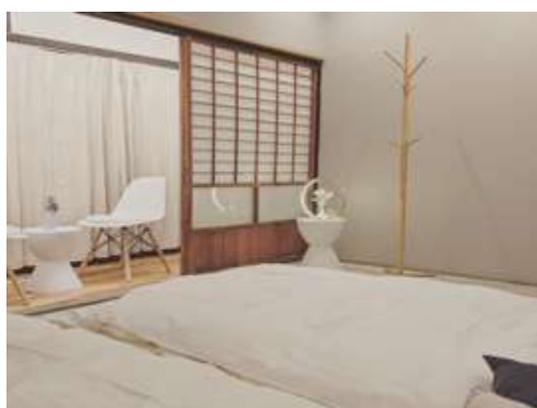
【概要】

代表者：高 斗煥（ゴ ドウファン）

支援決定：2018年1回

資金支援額：1,000万円

資金活用：古民家のゲストハウスへの改修



<生まれ変わった古民家ゲストハウスとその内装>

【現況報告】

神石高原地域で利用されなくなった古民家を活用して、日本各地、および海外から神石高原地域にいらっしゃる方々の滞在場所になることを目指して事業遂行されています。当初計画からコロナ禍の影響もあり、長い時間をかけて2020年12月から営業を開始されました。すべてはこの事業を応援して下さった皆様のおかげですとのこと。これからはどんどんイベントを開いたりしながら、この場所を中心に神石高原町の魅力を発信し、地域活性化に貢献していける想定です。地元の皆様も、外部から神石高原町に遊びに来られた方々も幸せになれる空間となれるよう全力を尽くしていけます。

【代表からのメッセージ】

近所にお住まいの豊松笹尾の皆様には「営業などの益々の繁栄を願います。」という応援の言葉を頂きました。また豊松協働支援センター・町議会・神石高原町観光協会・チャレンジ基金の関係者様からにも色々な営業に関する良いアドバイスを頂きました。皆様のご期待に応えられるよう努力いたします！

支援先事業の状況報告

株式会社ナオリ神石高原：「浄酎」の製造販売

【概要】

代表者：三宅 紘一郎

支援決定：2018年2回

資金支援額：300万円

資金活用：第一回クラウドファンディング製造販売関連

ホームページ：<https://naorai.co/>



＜神石高原町の蔵を活用して、つくられた「浄酎」＞

【現況報告】

日本酒を低温浄溜（特許取得技術）した「浄酎」を販売するために支援した第一回のクラウドファンディングは当初想定300万円を売り切り、500万円強の販売を実施されました。事業スタート後もその新規性に目を付けたメディアへの掲載は多く、神石高原町の認知度向上にも寄与しているものです。今後は副産物のアミノ酸も活用にもむけた研究開始を検討されています。地元雇用も実行し、継続体制を強化しました。追加で設備実行等も計画し、今後も地元にての事業拡大をめざされています。

【代表からのメッセージ】

多様で豊かな日本酒文化を未来に引き継ぐ。というビジョンの実現のため日本各地の日本酒酒蔵の日本酒を原料に浄酎というライスウイスキーのようなお酒を開発し、神石高原町に浄溜所を造ることができました。これから日本全国、世界各国に広げていきたいです。また地域のコミュニティの拠点になるような酒蔵にしていきたい、浄溜所のリノベーションを進めていきたいです。



支援先事業の状況報告

株式会社ダストマンズ：動画および動画教育コンテンツの作成

【概要】

代表者：村上 勇太 支援決定：2019年2回
資金支援額：500万円 資金活用：油木高校クラブ継続支援のためのコンテンツ拡充
ホームページ：
<https://www.youtube.com/channel/UCMyJ5odq13TMrW-sNqC0ZJQ>



<油木高校・動画作成クラブによるバンド「SOUND DRIVER」のMV>

【現況報告】

CMやミュージックビデオ等の動画を作成されており、また動画作成の教育コンテンツ部門においては、ユーチューブのチャンネル登録件数がNO1である、当社に、油木高校の動画作成クラブを継続支援いただくためのコンテンツ拡充のため支援を実行しました。コロナ禍においても、オンラインによるミーティング、生徒2名のYouTubeチャンネル開設を支援され、学校が再開された6月の終わりには生徒からの要望でミュージックビデオの撮影も実施されました。事業自体の売り上げも回復されております。今後も油木高校の支援を継続いただき、神石高原から発信を継続してもらいます。

【代表からのメッセージ】

新型コロナウイルスの影響もあり、TVCM等の映像制作の仕事は大きく減少しました。しかし映像編集者向けの各種Webサービスは順調に伸びており業界のリモートワーク化が進んだ結果だと思えます。また油木高校の動画クラブで作成したMVもYouTubeでの再生数約3万回になり彼らの熱も高まっております。現在第三弾の映像を制作中です。



支援先事業の状況報告

株式会社ヤマテツRising：水回り関連インフラ・井戸掘削工事

【概要】

代表者：山本 哲也

支援決定：2019年1回

資金支援額：1,000万円

資金活用：事業スタート関連費用



＜水回りのトイレの改装の様子。右は改修後。＞

【現況報告】

事業自体をほかの会社で実施されていた当社メンバーがスピンオフして独立される際の資金の一部を支援いたしました。地元にて水回りを一貫して行い、移住者が必要になる井戸掘削も含めたの事業を手掛けておられ、当初想定より順調に事業を開始されています。今後は、地元にて認知度を高めるマーケティング的視点をいれた活動や、地元の方々へのキャンペーン等を拡大される方針です。

【代表からのメッセージ】

本年8月末、無事に1周年を迎え、創業より今日まで応援して下さい、各機関や地域の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。今後も、小さい事からまあまあ大きな事まで！気軽に相談して頂ける(株)ヤマテツRisingであり続けるよう、頑張ってお参ります。



支援先事業の状況報告

株式会社DroneScenery：ドローンスクールの運営

【概要】

代表者：宮池研吉 支援決定：2019年2回
資金支援額：240万円 資金活用：ドローンスクール開業関連
ホームページ：<https://www.dronescenery.co.jp/>



<町内のドローン体験会の様子>

【現況報告】

神石高原町にてドローンスクールを開業するための資金の一部を支援いたしました。神石高原町においては、ドローン専門の会社としては唯一で、「HIROSHIMAドローンファーム仙養校」を開校、7月からスタートしております。またスクール事業以外も手掛けていく予定で、「ドローンの町、神石高原町」、を支えて発信していただくことを想定しております。

また現在実施しているドローン体験会も好評で、体験会からドローンスクールへの参加に期待を寄せています。

【代表からのメッセージ】

神石高原町にもドローンのライセンスを取得できるスクールができました。

2022年、ドローンが登録制になり、より一層ルールが厳しくなります。

資格が無いとドローンが飛ばせない時代がすぐそこに迫っていますので、今資格取得をしていただき、焦ることが無いよう対応していきます。

そして、随時体験会の開催もしております。

まずはドローンに触れていただき、この便利な物がどんなことに使えるのかお考えいただきたいと思っております。

目標は「ドローンの町、神石高原町」です。よろしくお願い致します。

チャレンジ基金について

○新しいビジネスチャレンジをサポート



チャレンジ基金は、神石高原町地域における産業の振興をはかり、地域のにぎわいを創出することにより、当該地域の事業者の運営を支援し、当該地域が継続的なコミュニティとして発展拡大に寄与することを目的に2017年設立。神石高原地域で新しいビジネスチャレンジを行う事業者に対して、資金的な資源提供を行うと同時に、伴走型支援と呼ぶ経営指導を一緒に実施していくことで、事業者の経営を安定化させると共に、自律的な運営を促すことで、新規事業者の参入を容易にしていこうを目指しています。少子高齢化と人口減少が進行した神石高原町であるからこそ、次代を担う人材の新しいチャレンジを応援することで新しい事業創造を図り、地域の活性化、にぎわい創出に繋げていく活動を進めます。

【住所】

広島県神石郡神石高原町小畠 2 0 2 5 番地(神石高原町役場内)

【ホームページ】

<http://jinseki-kikin.jp/>

【公式facebookページ】

<https://www.facebook.com/jinsekikikin>